

感動新聞 平成23年11月号 発行者 細川栄一

皆様、元気ですか？ 成功する秘訣はAAS（明るく、愛嬌、素直に）だそうです。意識してやりましょう。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

金メダルは、ホップにすぎない！

2008年、北京オリンピックで、日本のソフトボールチームが悲願の金メダルをとりました。あの感動のシーンを覚えている方も多いと思います。

彼女たちの目標は、もちろん金メダル獲得です。

しかし、それだけではなかったところが、他のチームとの違いでした。

女子ソフトボールは、北京大会を最後に、オリンピックの公式競技から外れることになっていました。後に続く子供たちの夢が消えてしまうという危機感から、彼女たちは単に金メダルを獲得するだけでなく、「ソフトボールをオリンピック競技に復活させるため」「劇的に勝利する」ことを志したのです。

それは使命ともいうべきものでした。

人とは不思議なもので、自分のためよりも人のために行動するほうが、力が湧いてきたり、苦難に耐えられたりします。

女子ソフトボールチームは、その使命のために、ハードな練習に耐え、意識を高めるブレイン・トレーニングを行い、北京大会に挑みました。

彼女たちを指導したブレイン・トレーニングの第1人者、西田文朗氏はのちにこの劇的な勝利を振り返り、そんな使命感の差が、金メダルを目的にしていた各国チームとの結果の差となって表れたのかもしれないと語っています。

第1戦で活躍するスポーツ選手は、燃え尽き症候群に陥り易いといわれています。

その原因の一つは、目標設定の仕方にあります。

個人、団体を問わず、目標のステージで勝つことだけを目的にしていると、大会が終わった途端に燃え尽きてしまうわけです。

「金メダルは、ホップ・ステップ・ジャンプのホップにすぎない」と、西田氏はよく指導していたそうです。

目標設定の仕方によって、成果に大きな差が生まれるし、燃え尽き症候群を回避することもできる。このことは私たちのチーム・マネジメントに大きなヒントを与えてくれます。

参照「実践するドラッカー『チーム編』」ダイヤモンド社

少年よ、大志を抱け！

この有名なクラーク博士の言葉がありますね。

この後に続く 文面をご存知ですか？

**少年よ、大志を抱け！ お金のためでなく、私欲のためでもなく、名声という空虚な志のためでもなく
人はいかにあるべきか、その道を全うするために大志を抱け。**

私はこの文章を一番初めに知ったのは、テレビドラマ「ドクターコトー」でした。

何故か、感動して涙が止まらなかった記憶があります。

何のために・・・医者になるのか？

「自己との対話」です。

そして「自己対決！」その中から「新たな自己創造」に繋がります。

人はいかにあるべきか？

自分自身に問いかけましょう！